

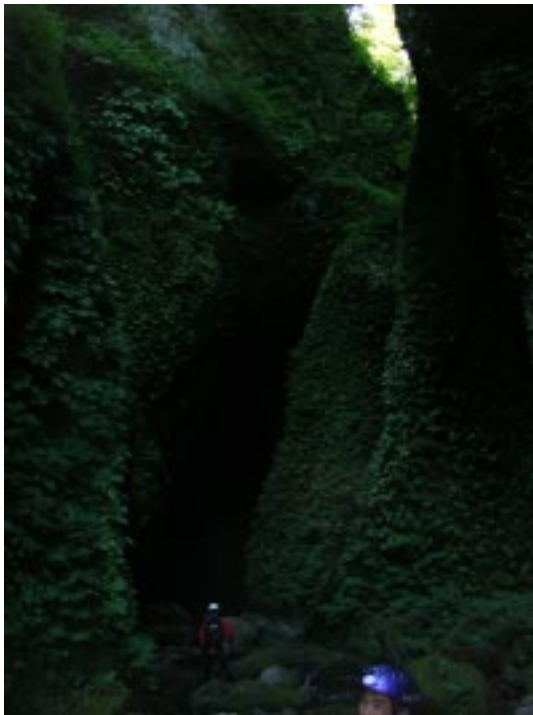
扇ノ山 小又川本谷溯行

2004. 8月 11 日

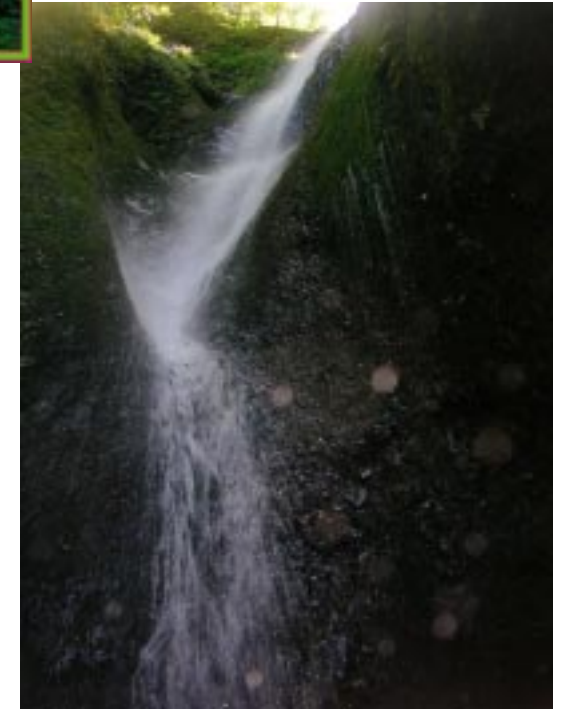
White Bird 沢登り隊
桂ノ滝にて敗退
高巻きはもうゴメンだ！
(>_<)



桂ノ滝にて敗退



不気味なシワガラノ滝 12m の入口



桂ノ滝 40m

種 目：沢登り
山 域：兵庫県
場 所：扇ノ山・小又川本谷
日 時：04.08.11
コ ー ス：海上村の柵田P- 入溪 - 桂ノ滝 - 登山道 -
林道 - 海上村の柵田P
メンバー：石野・横小路・大塚・大本・恵



溯行開始

昨夜の岩井谷よりほんの少し移動して海上村の棚田のどん詰まりに駐車してテント泊をした。のんびりとした最高の夜で満天の星空に囲まれて、なんとこんな所でも天の川がはっきりと見えたのには感動した。

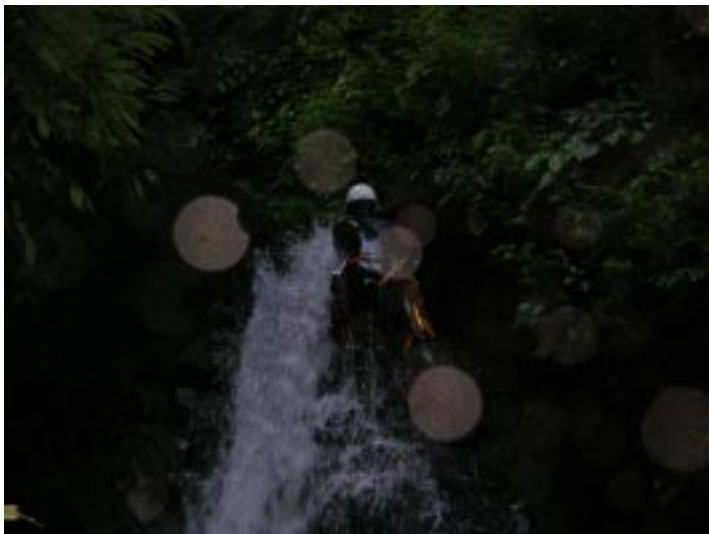
今朝は5時に起床してピバーク道具一式を詰め込んで、小又川の準備に忙しい。この小

又川はガイド本では「伯耆大山の甲川を思わせる」と言うほど迫力がある沢と書かれている。自然に気合いが入ってくる。

6:45 溯行開始

棚田を下へ降りて適当な所から入渓。沢自体は少々暗く感じてあまり快適とは言えない。

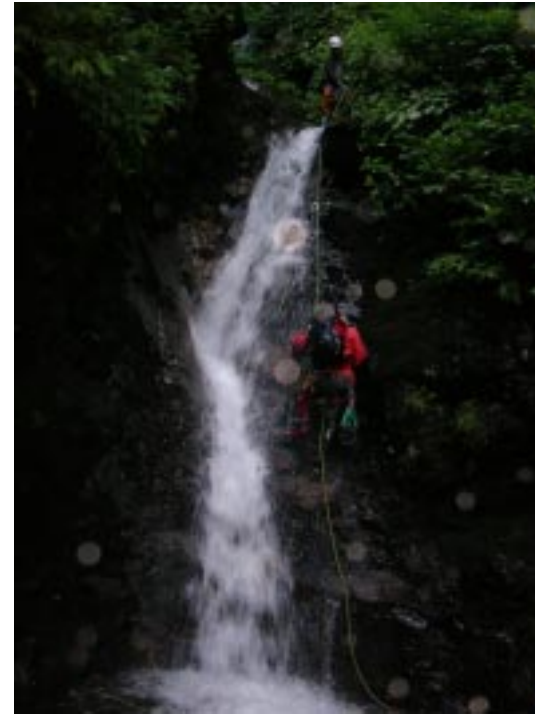
しばらく行くと二股になり左に黒い滝が現れるがそれを右に進路をとる。



8mのいきなり困難な滝に挑む石野氏

7:13 8mの最難関の滝

それからはだんだんと両岸が切り立って薄暗いゴルジュ帯となるといよいよ最初の8m滝が進路をふさいでいる。何とか攀じれそうだが、最後のヌケだ



ロープ確保でも難儀する

しが水量が多くて難儀しそうだ、しかしここは高巻きルートは無い。突破するしかないのだ。果敢にも石野氏がザックを背負ったまま淵を泳いで行きチャレンジを試みる。ザックを背負っているのが水量で持っていられそうである。やはり、思った通り最後のヌケだして難儀する、ここにハーケンを一本ぶち込んでスリングを付けるが、力を入れた途端「ウワッ、危ないっ！」一瞬のうちに6mの岩上から落下！、しかし持ち前の反射神経でうまく反転して右岸の岩を右足で蹴り見事にお釜に顔面より落下。しかし釜が深くてよかったものの、大事なメガネを破損してしまい、膝を打ち付けて打撲を負ってしまった。しかし、ここ一番、今度はザックを置いて再びチャレンジ！。ヌケだし手前までは難なくクリアするもののやはり、空身でもこの水量には往生するところだ。今度は奥深くハーケンをぶち込み、ヌンチャクをかけて下で私が確実にピレーをする。しかし、この水量に逆らって登り切るのは相当の集中力を要する。前身でこの水量を堰



最後はせり上がる



3mの滝はシャワーでクリア

止めるかのように全ての力を振り絞ってなんとか登り上がった。ピレーをしている私も冷や汗ものであった。後はロープして順次上がっていき、ザックをリフトアップして最後にハーケンを抜こうとしたが、残置しておくことにした。石野氏どうもお疲れさまでした。その上は3mの滝だがこれはシャワーで難なくクリア。これで最初の廊下が終わる。

8:44 泳ぎ

それを過ぎると泳いだりへつったりしながら楽しめるのだが、再びゴルジュ帯



泳いだり

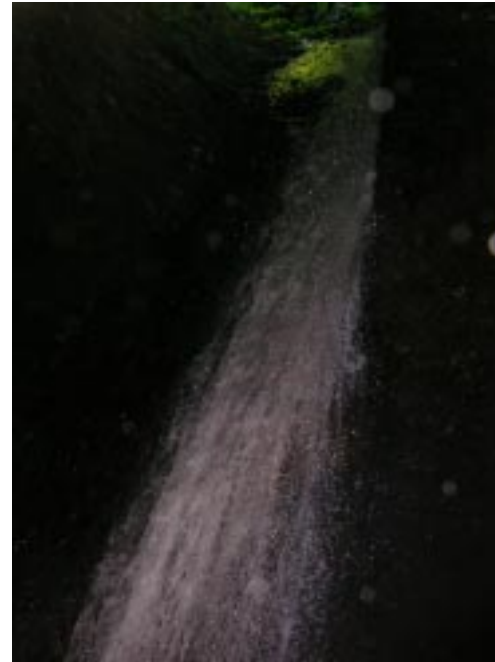
になってきて、その岩肌にはびっしりと手の平ほどの濃い緑の葉に覆われている、こんなも全面が緑に覆われたゴルジュ帯は今までに見たこともない景観である、その前面には沢をふさぐように異様な洞窟のようなものが現れる。

9:09 シワガラの滝 12m

その巨大な洞窟に足を踏み入れて行く



股裂きしたり



シワガレの滝 12m

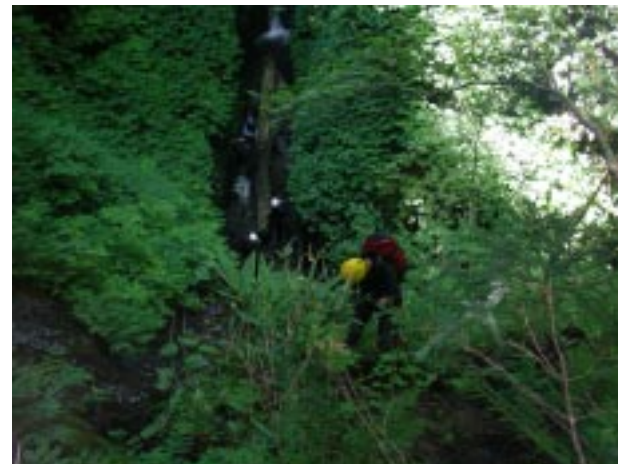
と、右側の真っ黒い岩肌よりほとぼしる水流・・・これぞシワガラの滝である。その光景はこの世のもととは思えぬ怪奇な滝である。人間を寄せ付けないまるで仙人でも住んでいそうな所である。その岩肌は真っ黒い火山岩で高さ12mにも及ぶのだが全くもってバンドやクラックが無くハーケンなど打ち込めるような代物ではない。しかしガイド本には本流の左にボルトを打ってあると書いているのだが、どこを探しても見あたらない。この小又川渓谷のシワガレの滝とその先の桂ノ滝は登山道をつたってくれば悪道ではあるが、一般にも見られるようになっている。その道標も新しいことからたぶん景観を損なうとのことで温泉町の役人が抜いてしまったのだろう。

しかたなく後戻りしてその登山道を登りつめてからトラバースすることにした。ここで天然ワサビをゲット(^o^).

9:55 懸垂下降 15m

シワガレの滝からすぐに小滝群があるのだが、これも高巻きのおかげで通り過ぎてしまった。

15mの懸垂が済んでから



15mのややこしい懸垂下降



ふんだんに泳ぎがある

は両手で右岸、両足で左岸に「サスケ」のように突っ張って淵と越える。

10:26 泳ぎ

今度はお釜を泳いでいくと右岸上部からロープが垂れ下がっていた。やはり先人もシワガレを高巻いてここへ降りてきたのだろう。この辺りはゴルジュ帯で泳いだりへつったりと小滝が続き面白いところだ。

10:48 4mの滝

この開けた4mの滝はとても登れない。よく見るとその右側の草付き3mの所にピトンが見える、よくよく見るとその下に錆びたハーケンが2本。ここは私がトップでアブミをセットしながら登りつめる。最後のヌケだして難儀して手を伸ばすと何と、トップロープを仕掛けるリングが打ってあり三角スリングを施してあった。先人さんありがとうございます。しかしこんな所にこれだけ打ち付けてあるのに最初の8mの滝には全くないのはどういう訳だろう？、



草付きにアブミをかけて登る



ゴボウで抜き上げる

水量が少なくなれば隠れハーケンが見えてくるのかもしれない。

11:54 7mの滝

しばらくはゴロ口帯が続くと今度は7mの滝が現れる。石野氏がザック担いで果敢に攻めるが歯が立たず、若手の大本が空身で左側よりフリーで難なく登ってしまった。これには一同アゼンとしてしまった。続いて大本のトップロープで恵、横さん、石野氏が空身で攻めるがまったくもって歯が立たず。最後に私が攻めるがなんなくクリアできてしまった。下の3人はロープでも全く登れないので、私を大本が一人ずつゴボウで引き吊り上げた。恵は引き吊り上げる時に弁慶の泣き所を打ったようで半泣き状態(>_<)。ザックはプーリーでリフトアップした。



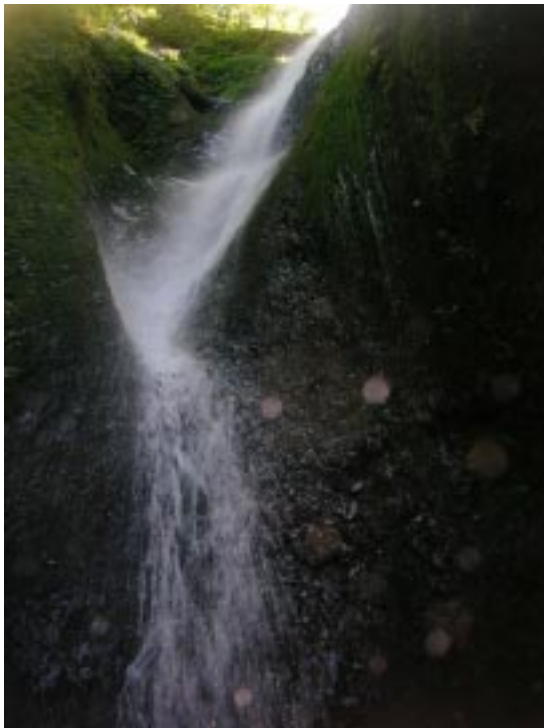
奥が15mの滝、左の草付きを直登する

12:50 15mの滝

続いて15mの滝に出くわすがこれは景観だけにして右岸のとんでもない急斜面



桂ノ滝の手前5mの滝



豪快流れ落ちる桂ノ滝

の草付きの直登を強いられる。足下が悪く草付きもミズヤギポーシで力を入れれば簡単に根こそぎ抜けてしまい神経を使うところだ、ここで恵と横さんがビビってしまい動けなくなりロープを出す。しかしどこまで高巻くねん？というくらい木の枝にしがみつきながらドンドンと登り詰めると何と、またまた登山道に出た。これは桂ノ滝までついているに違いないと石野氏がふんでそのまま桂ノ滝へ向かった。

14:20 桂ノ滝 40m

40mの落差から落ちる水音は豪音で見るものを飽きさせ

ない。周囲の壁は濃い緑の葉で覆い尽くされて豪快そのものである。しかしとてもじゃないがこんな滝はクリアできない。

ガイド本にはその左の黒い滝のその左のルンゼを登り詰めて右にトラバースして枝沢を渡り、ヤブをこぎ、小尾根、小沢、さらに小尾根を越してヤブコギで下ると桂ノ滝上部に出る。と書かれているが、もうこんなとんでもない高巻きはうんざりである。当初は沢を登り詰めて登山道へ出て小ズッコの避難小屋に泊まるつもりであったが、シワガレの滝に登れなく高巻きをしてから少々戦意抄出気味になっていた。

14:30 敗退

大山の甲川も完全溯行してきたが、「White Bird 沢登り隊」の初めての敗退である。まあこれはこれで良い経験になるだろう。

15:52 林道着

桂ノ滝からは登山道を3kmほど歩くと林道へ出る、そこから海上の棚田のPまでは約5kmの歩き。

17:05 駐車場着

この日は再びここでキャンプ。テント無しで夜空の星に囲まれて敗退談義に花が咲きスターシャワーに包まれながら心地よい快眠(-_-)° ZZZ....。

